

フロイントレポート

FREUND REPORT

株主の皆さまへ

2017年2月期中間

| 2016.3.1 ▶ 2016.8.31 |

01 社長インタビュー

03 **特集** フロイント産業の
食品品質保持剤事業

「**できたてしっとり
の美味しさ**
を追求しています

04 事業概況

05 財務情報

06 株式情報 / 会社情報

証券コード 6312

フロイント産業株式会社

たとえば…

できたてしっとりの美味しさを
できるだけそのままに。

業界初のアルコール系食品品質保持剤を
販売してから37年。フロイント産業は、
アルコール蒸気のサイエンスを通じ、
お菓子の安全と品質を追求してきました。



NEXT 50

GNT100

経済産業省より
「グローバルニッチ
トップ企業100選」
に選定されました。



Q 当上半期における事業環境のレビューをお願いします。

A **医薬品関連** ▶ 国内市場におきましては、機械、化粧品ともに、ジェネリック医薬品メーカーからの需要が非常に旺盛で、受注高・売上高ともに大きく伸長しました。増収効果に加え、戦略新製品である次世代錠剤印刷装置「TABREX Rev. (タブレックス)」の開発投資が落ち着

医薬品業界をはじめ、 さまざまな分野において 『Change & Challenge』を推進し、 世界中の皆様の健康や 生活の質向上に 貢献してまいります。

第6次中期経営計画の最終年度である
2017年2月期上半期が終了し、
当中計の実践を通じて見えてきた今後の方向性について、
代表取締役社長の伏島巖に聞きました。

代表取締役社長 | **伏島 巖** Iwao Fusejima

いてきたこと、アイルランド子会社のフロイント・ファーマテック社を売却したことなどにより、利益がより大きく拡大しました。

特に機械部門では、需要を取りこぼさないように営業活動を強化してきた結果が、受注残高にも表れていると思います。一方で、受注後の対応、例えば技術サポートや据え付けなどを行う部門への負荷が想定以上に大きくなっているため、納入時、納品後のサービス体制を強化しています。

製造においても、当上半期、協力メーカーを2社増やしたのですが、新たに当社製品の製造をお願いしていることもあり、工程管理や生産プランニングなど、品質や納期に関するチェック体制の強化を図っています。

9月26日付の業績予想の修正で通期予想を据え置いた理由には、機械装置販売にかかる検収の期ずれなどの不透明要素を織り込んでいます。

化粧品部門では、直接打錠用賦形剤や口腔内崩壊錠（OD錠）用賦形剤への需要が非常に強くなっています。特に大手ジェネリックメーカーは、新たな製剤技術を通じて独自性を追求していることから、「ノンパレル」などの当社製品を積極的に活用いただいています。

海外市場でも、北米、中南米、欧州、中東エリアをカバーする米国子会社のフロイント・ベクター社の業績が伸長しています。これまで、ブラジルやトルコといった米国外の動きが強かったのですが、近年の経済失速やドル高の影響で、これらの新興国市場が減速しています。一方で、米国への医薬品生産回帰などの追い風を受け、米国内での販売が伸長しています。

フロイント産業がカバーするアジアエリアでは、インド、韓国、中国、台湾を主力市場ととらえ、営業を強化しています。特に、製薬関連企業1万社が集約していると言われるインドにおいて、価格を含めその市場性にあった造粒・コー

ティング装置「グラニュレックス」を開発し、フロイント・ベクター社と協力して販売強化を図っています。インド市場には強い装置需要がありますので、今後ラボセンターの設置なども視野に、フロイント産業グループにしか提供できないユニークな機械装置を拡販したいと考えています。

非医薬品関連 国内子会社のフロイント・ターボ社が強みを持つ高速粉碎・分級技術をもとに、トナーやリチウム電池などの高性能製品に対する需要が強い産業機械市場での販売強化を図っています。リチウム電池向けは、当社にとって新しい分野ですが、粉体技術を駆使した事業展開や受託事業を通じ、さらなる成長を実現したいと考えています。

食品品質保持剤事業では、従来のアルコール蒸散剤市場に加え、市場規模がより大きい脱酸素剤市場への参入を促し、新製品開発を適宜進めています。

Q 第6次中期経営計画（以下「当中計」）の実践を通じ、見えてきた今後の方向性について教えてください。

A 当中計における取り組みを通じ、今後強化すべき戦略・施策が明確になっています。医薬品関連では、①フロイント産業、フロイント・ベクター社の協業によるアジア市場の開拓、②戦略新製品である次世代錠剤印刷装置「タブレット」の拡販、③医薬品添加剤の海外展開、そして非医薬品関連では、④リチウム電池を中心とした二次電池開発に求められる装置市場の開拓、が挙げられます。

当下半年から来期にかけて、特に重要と考えているのが「タブレット」の本格立ち上げです。7月開催のインター

フェックスジャパンに出展したことをきっかけに、新薬メーカー・ジェネリックメーカー大手のお客様からの引き合いが旺盛です。9月から正式に販売を開始していますが、現在、複数社のお客様のテストを進めるとともに、印刷用インクのラインアップの拡充を図っています。

「タブレット」を手掛けたことにより、従来の機械装置とは異なる要素技術が当社に加わりました。新技術陣による、これまで手掛けていなかった新たな技術領域を中心に、当中計のスローガンである『Change & Challenge（変革と挑戦）』は浸透していますが、さらに当中計の基本戦略テーマの一つ『創造的成長の実現』に向けて、より一層の経営努力が必要だと強く感じています。

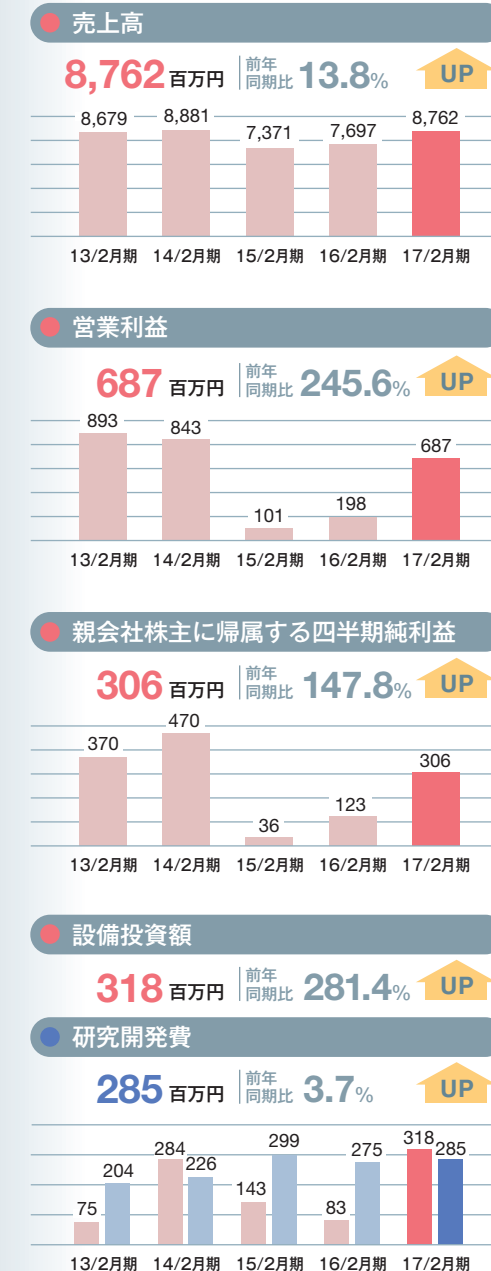
Q 最後に、株主の皆さまに向けてメッセージをお願いします。

A 国内市場において、「ジェネリック医薬品（GE）80%時代」という大きな追い風が吹いている現在、短期的にはこの特需を最大限に取り込んで、結果を出していくことが極めて重要だと考えています。中長期的には、グローバル展開を含め、新たな事業領域・産業分野への投資を強化し、5年後、10年後を見据えた次の手をしっかり準備する必要があります。

現在当社では、当中計最終年度である当期、計画の達成に注力し、次期中計につながる施策に取り組み始めました。当社グループが一体となり、コアコンピタンスである製剤技術を医薬品関連以外の分野でも応用すべく、『Change & Challenge』をさらに浸透させてまいります。

今後とも当社グループを変わずご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

決算ハイライト（各期中間）





アンチモールド・マイルド

人々の安全な食生活を支える 食品品質保持剤

焼き菓子やパン、和菓子などの包装に入っている小袋——これが、さまざまな食品の品質保持に利用され、安全な食生活に役立っている食品品質保持剤です。食品品質保持剤には主に、鉄の酸化を利用して酸素を吸収する「脱酸素タイプ」とアルコールの一種、エタノールを蒸散する「エタノール蒸散タイプ」があります。前者は静菌効果と酸化防止機能に優れ、後者は静菌効果としっとり感を保持する機能に優れています。フロイント産業は、「エタノール蒸散タイプ」の市場で約4割の国内シェアを有しています。

餅の防カビ剤開発に始まった 食品品質保持剤事業

食品品質保持剤事業は、餅の防カビ剤を検討してほしいとのお客様の声に始まりました。アルコールの殺菌力に注目し、研究を進めたところ、食品と一緒に粉末アルコールを袋に入れておくとカビが発生しにくいことがわかりました。そこで、粉末アルコールを入れる包材と粉末アルコールの濃度を検討し、1978年、業界初のエタノール蒸散剤「アンチモールド-102」を発売しました。この製品は、

アルコールガスの蒸散速度が一定で、防カビ効果に優れていたため、半生菓子などの品質保持用に市場が広がりました。1984年頃、「アンチモールド-102」や脱酸素剤を単独で入れた生パン粉やクレープの袋が膨らんでしまう現象が多発しました。食品に付着している酵母菌や乳酸菌による発酵が原因であるとわかったため、両タイプの品質保持剤を一緒に入れてみたところ、発酵を防ぐことができました。1987年発売の多機能型食品品質保持剤「ネガモールド」は、エタノール蒸散剤と脱酸素剤の機能を併せ持つことで、水分を多く含む食品の発酵を抑制できる製品として、好評を得ました。

食品のさらなる風味、 さらなる安全を目指して…

近年、ソフトでしっとり感がある半生菓子が好まれるようになっていきます。一般的な脱酸素剤では半生の風合いが低下する一方、エタノール蒸散剤は、風合いはあるものの、アルコール感が若干気になる場合がありました。そこで、食品の風味を損なわない品質保持剤として、2012年、「ネガモールド ナチュラル・ライト」を発売し、和菓子市場への参入も実現しました。当期は、エタノール蒸散剤市場の6倍以上の規模があると言われる脱酸素剤市場に挑戦するため、当社初のエタノールゼロの脱酸素剤「ネガモールドZ」の発売を開始しました。



特集 フロイント産業の
食品品質保持剤事業

「できたてしっとりの美味しさ」 を追求しています

フロイント産業が、業界初のアルコール系食品品質保持剤を発売したのは1978年。それ以来、粉末アルコールを科学することで、「できたてしっとりの美味しさ」を追求し続けてきました。本特集では、化成品部門の非医薬品分野の柱である食品品質保持剤事業の概要をご紹介します。



機械部門

医薬品、食品、ファインケミカルなどの様々な分野向けに、造粒・コーティング装置などを製造・販売

グループ会社

フロイント産業株式会社
フロイント・ターボ株式会社
FREUND-VECTOR CORPORATION

特徴

- ★ コーティング装置の販売シェアは、国内で約70%。
- ★ アジア市場に加え、米国子会社による欧米展開も加速。
- ★ 製剤技術をベースに装置開発を行う世界で唯一の企業。
- ★ 造粒・コーティング技術に、粉碎・分級技術を融合させることで、産業機械向け装置の拡販にも注力。



化成品部門

医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品などを製造・販売

グループ会社

フロイント産業株式会社

特徴

- ★ 医薬品添加剤は、GMP(*)対応設備で生産。
- ★ 食品品質保持剤は、様々な食品の品質保持に利用され、安全な食生活に貢献。
- ★ 造粒・コーティング技術を用い、お客様企業との共同開発で栄養補助食品やシームレスミニカプセルを商品化。

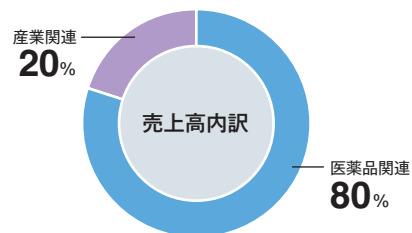
(*) GMP : Good Manufacturing Practice

売上高
(中間)

5,697 百万円
前年同期比 **14.1%** UP

部門利益
(中間)

567 百万円
前年同期比 **272.6%** UP

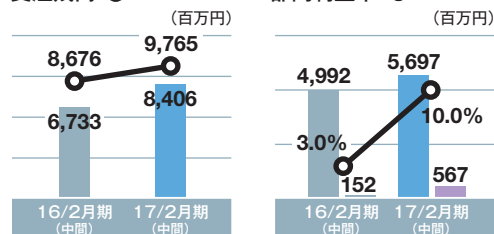


2017年2月期(中間)の概況

造粒・コーティング装置を主力とする機械部門においては、ジェネリック医薬品業界の旺盛な設備投資意欲により、受注は好調に推移し、受注高・受注残高ともに増加しました。

受注高 / 受注残高

売上高 / 部門利益 / 部門利益率



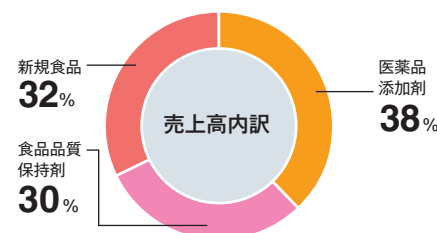
装置売上が好調に推移したことに加え、下期に計上を予定していた売上の一部が、上期に前倒し計上となったことや、米国子会社フロイント・ベクター社の好調な北米売上が寄与し、売上高が増加しました。増収効果や開発投資の落ち着いたことにより、部門利益も増加しました。

売上高
(中間)

3,065 百万円
前年同期比 **13.3%** UP

部門利益
(中間)

357 百万円
前年同期比 **62.6%** UP

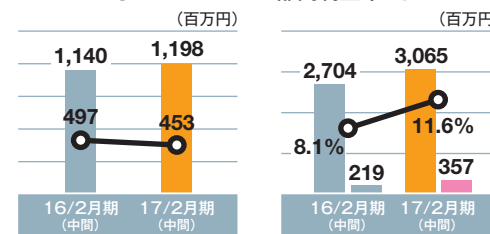


2017年2月期(中間)の概況

食品品質保持剤は、競争激化のなか積極的な営業展開を図りましたが、売上高・営業利益とも微減となりました。一方、医薬品の経口剤に使用される機能性添加剤は、ジェネリック医薬品を主体に好調を維持しました。また、当社技術を活用した栄養補助食品も堅調に推移しました。

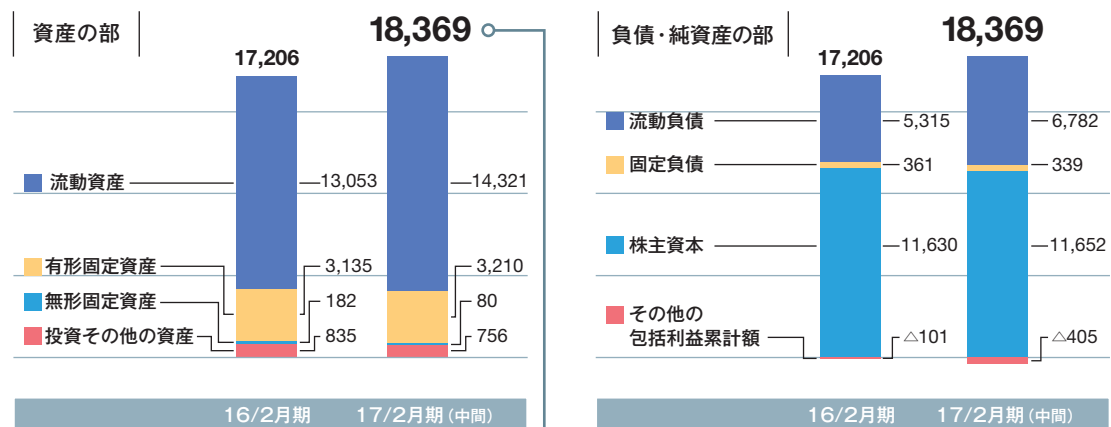
受注高 / 受注残高

売上高 / 部門利益 / 部門利益率



この結果、受注高・売上高・部門利益ともに増加し、部門利益率も改善しました。

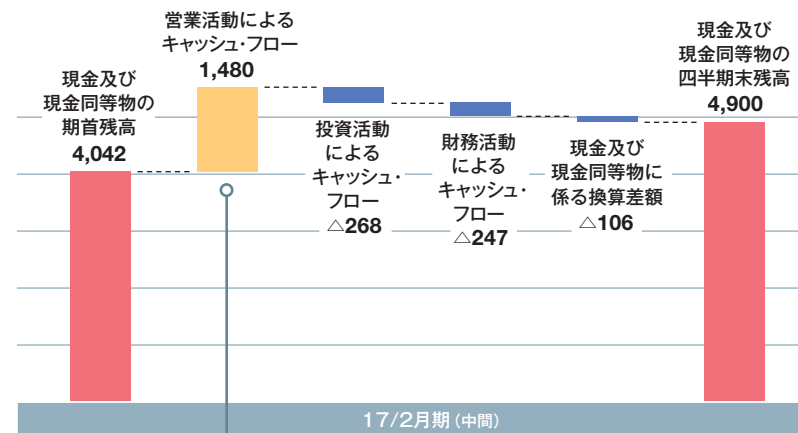
連結貸借対照表 (百万円)



POINT

受取手形及び売掛金が減少したものの、好調な受注を反映し、仕掛品や前受金が増加しました。この結果、総資産合計は前期末比6.8%増の183億69百万円となりました。

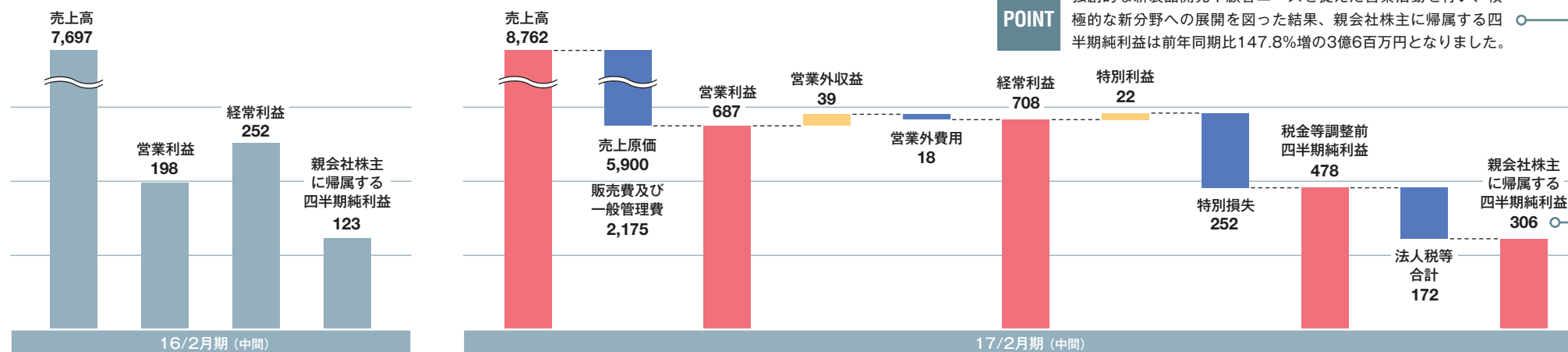
連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)



POINT

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に、減価償却費・売上債権の減少や、仕入債務・前受金の増加により14億80百万円の増加となりました。

連結損益計算書 (百万円)



POINT

独創的な新製品開発や顧客ニーズを捉えた営業活動を行い、積極的な新分野への展開を図った結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比147.8%増の3億6百万円となりました。

STOCK INFORMATION

株式情報 (2016年8月31日現在)

(注)2016年3月1日付で、当社普通株式を1株につき2株の割合をもって分割いたしました。

株式の状況

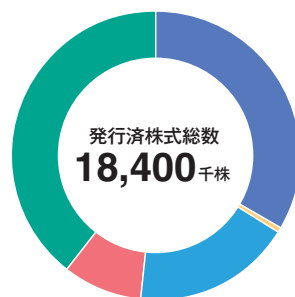
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	18,400,000株
株主総数	4,134名

大株主の状況 (上位10名)

	持株数(千株)	持株比率(%)
伏島 靖豊	1,841	10.00
(株)エフ・アイ・エル	1,648	8.96
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,376	7.48
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,301	7.07
(株)三菱東京UFJ銀行	861	4.68
(株)三井住友銀行	744	4.04
(株)大川原製作所	673	3.66
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口9)	461	2.51
フロイント従業員持株会	430	2.34
(株)静岡銀行	368	2.00

自己株式1,155千株 (6.28%) を保有しております。

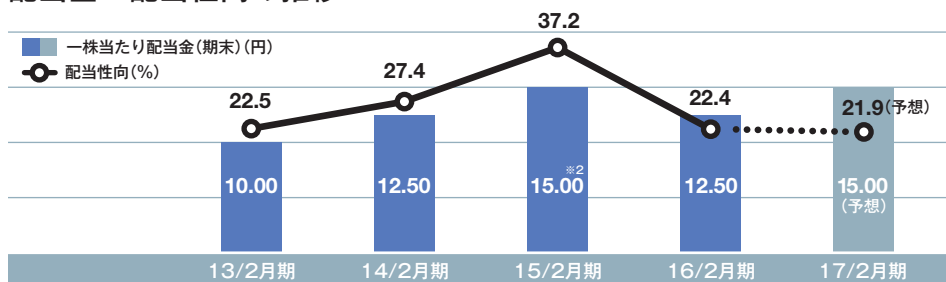
所有者別株式分布状況



金融機関	33.46%	6,156千株
金融商品取引業者	0.66%	120千株
その他法人	17.79%	3,273千株
外国法人等	8.65%	1,591千株
個人・その他	39.44%	7,257千株

(注)自己株式は「個人・その他」に含めて記載しております。

配当金・配当性向の推移^{※1}



※1 2016年3月1日付で、当社普通株式を1株につき2株の割合をもって分割しましたが、2013年2月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※2 記念配当2.50円含む。

CORPORATE DATA

会社情報 (2016年8月31日現在)

会社概要

商号	フロイント産業株式会社
英文商号	Freund Corporation
設立	1964年4月22日
資本金	10億3,560万円
事業の概要	医薬品、食品、化学等の業界向け造粒・コーティング装置及びプラントエンジニアリングと医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品等の開発・製造販売
従業員数	388名 (連結)
本社所在地	東京都新宿区西新宿6丁目25-13 フロイントビル
ホームページ	http://www.freund.co.jp

名誉会長

名誉会長	伏島 靖豊
------	-------

役員

代表取締役社長	伏島 巖
常務取締役	白鳥 則生
取締役	武井 成通
社外取締役	真鍋 朝彦
社外取締役	中竹 竜二
常勤監査役	小林 正
社外監査役	飯嶋 一司
社外監査役	新里 智弘

関係会社

JAPAN



GLOBAL



FREUND-VECTOR CORPORATION
粉粒体機械装置の製造・販売

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月開催
株主確定日	定時株主総会・期末配当金 2月末日（中間配当を実施するときの株主確定日は、8月31日）
株主名簿管理人 同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
（お問い合わせ先） 郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711（通話料無料）
公告方法	電子公告の方法により行います。公告掲載URL（ http://www.freund.co.jp ） ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

IRツール

当社ホームページ内の「株主・投資家情報」では、IR関係のニュースリリース、決算短信、フロントレポート、統合報告書、電子公告、決算説明会資料、ファクトブック、ファクトシートなどがご覧いただけます。また、このページで当社の最新のIR情報を配信する「メール配信」の登録ができますので、ぜひご登録ください。



トップページ

トップページの「株主・投資家情報」をクリックすると、最新のIR情報をご覧いただけます。



株主・投資家情報

PDF掲載資料（一例）



決算説明会資料（日・英版）



フロントレポート



統合報告書（日・英版）

詳しいIR情報は当社のホームページをご覧ください。

<http://www.freund.co.jp/ir/>

新オフィス紹介



- 1 フリーアドレス制を導入した営業部隊の執務スペース
- 2 様々なタイプの打ち合わせスペース
- 3 外部とのテレコン等が可能なコミュニケーションスペース

働き方改革を推進しています！

2016年6月、フロント産業は、将来的な業容拡大に備え、執務スペースの拡張とオフィス環境の改善のため、本社を新宿区西新宿に移転いたしました。新オフィスでは、営業部隊を中心にフリーアドレス制の導入を行い、働き方変革にも取り組んでおります。よりオープンになったオフィス環境において、次世代を見据えた働き方の推進や、活発で幅広い社内交流を通じた一体感ある経営の強化を実現してまいります。

フロント産業株式会社

このフロントレポートに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

○コーポレート・コミュニケーション部 03(6890)0767 ○URL <http://www.freund.co.jp>

